

本文の末尾につく①～⑤までのアルファベットはP67の入手先一覧に対応しております

All About Melody / Russell Malone



- ①On The Reel Side ②Message To Jim Hall ③Message From Jim Hall ④Nice Lady ⑤Sound For Sore Feet ⑥When A Man Loves A Woman ⑦Saving All My Love For You ⑧Jive Jaxx ⑨Hunted Heart ⑩Biskit ⑪He's Gone Away
- Russell Malone (g) Rick Germanson (p) Luke Sewell (b) Willie Jones (ds) 2015.11.10, NY
- HighNote Records HCD 7287

共演者を含むジャズメン曲を通じて旋律の魅力を引き出し

ギタリストとしての師匠格であるホールに捧げた温かい曲調の②に対して、本人の声が特別出演する③で応える構成がいい。マローンが参加したF.ハバードの遺作収録曲①、(セント・トーマス)を意識したような演奏のS.ロリンズ曲④、アレンジのやりがいを感じさせるJ.ヒースの⑤、独奏のポップス⑥、アップ・テンポで躍動するB.ブルックマイヤー曲⑦等、全編で心地良いギター・サウンドを堪能。毎度のことながらジョーンズの好演が光る。(杉田) ⑤

Which Way Now? / Julian Shore



- ①Our Story Begins On A Mountain ②Which Way Now? ③Back Home ④Moss, Marion, Sandstorm ⑤Alike ⑥Across The Ice ⑦Con Alike ⑧All Heart ⑨Pine Needle ⑩Lullaby (From Ciel De Lune)
- Julian Shore (p,ky) Dayna Stephens (ts) Gabe Hekselman (g) Akeia Carroll (b) Colin Strahan (ds) Goodwin (mix) ②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
- Michael Thomas (②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿) Michael Mayn, Alex Baratin (②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿) ②015
- Tone Poop Records RR021185005

米新世代派ピアニストが考えるジャズとは何か、を知る新作

2012年の制作「Filaments」に近い編成で構成。スティーブンスを管楽器奏者の主軸に据えて、2管ハーモニーやソロで楽曲を組み立てながら、ピアノでしっかりと自己主張するハードコアな音作りに共感できる。それだけにとどまらず、ヴォーカル曲⑤、カホンを使用したエスニック風アレンジの名曲⑦、各種ギターを入れて古き良きアメリカを表現した⑧と、全曲を聴けば多彩なイメージを目指したショアの意図が伝わる。発展途上の最新報告。(杉田) ①

Shuffle Along / Ehud Asherie



- ①Gypsy Blues ②I'm Just Wild About Harry ③Everything Reminds Me Of You ④I'm Cravin' For That Kind Of Love ⑤Bandana Days ⑥I'm Just Wild About Harry (Waltz) ⑦Oh You've Never Been Vamped By A Brownskin ⑧Goodnight Angelina ⑨Love Will Find A Way
- Ehud Asherie (p) ②016
- Blue Heron Records 888295397636

イスラエル出身の異色ピアニストが米国の歴史的遺産を発掘

1921年に米国の白人劇場で上演された初の黒人ミュージカルのソングブック。多くの黒人俳優がブロードウェイ初出演のチャンスをつかんだ記念作という来歴を知れば、アルバム・コンセプトの成立事情の理解が深まるだろう。ユービー・ブレイクが書いた楽曲を、95年もの時を経てカバー。ラグタイムはもちろん、ビバップやブラジル音楽も吸収した技法を持つアシュリーが、軽やかに鍵盤上を舞う。没後30年経ったブレイクの再評価にも期待。(杉田) ④

Circles / Anne Paceo



- ①Sunshine ②Today ③Tundra ④Birth And Rebirth ⑤Tzigane ⑥Patience ⑦Myanmar Folk Song ⑧Moore ⑨Sables ⑩Polar Night ⑪Cracks ⑫A Tempestive
- Anne Paceo (ds,vo) Emile Parisien (ss) Tony Paoloman (b,ky,bass station) Lilla Marini (vo) Adrien Daoud (②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿)
- aborie Jazz I J35

構想から完成まで4年間を費やしたドラマーの第4弾

新たな音楽性を追求。大きな変化は女性歌唱とキーボードの導入。前者は英語ヴォーカル、スキット、仏語ラップ、器乐的唱法を楽曲によって使い分けし、後者は主楽器の他、ウッド・電気ベースではなく鍵盤ベースを選択。おそらくアナログ・シンセの使用を含めて、ローファイな音の質感にもこだわったようで、その背景には新世代ニュー Yorker の動きとの関連性も指摘できそう。ドラマー、バセオがサウンド・クリエイターへシフトした意欲作。(杉田) ④

New Journey / Greg Fishman



- ①Champagne Jane ②Datrix ③Floating Down ④New Journey ⑤Bopportunity ⑥The Ninth Degree ⑦Constellations
- Greg Fishman (tx) Dennis Luxion (p) Eric Hochberg (b) Phil Gratke (ds) ②016
- Greg Fishman Jazz Studios CD1024

親日家でもあるテナー奏者がワン・ホーンで挑んだ新たな旅

生地のシカゴを拠点に活動し、教育活動にも情熱を注ぐフィッシュマン。日本を含むアジア・ツアー中に作曲した自作曲を中心に構成。スタン・グッツの研究本を出しているだけあって、スタイルに影響関係が認められ、コルトレーンを吸収した跡も、⑥に顕著なバビッシュな演奏を打ち出しながら、トゥー(スリー)・フォー・ブラジルの経歴も反映したボサノバ色も表現。外連味のない正攻法でのアプローチが清々しさを呼び起こすカルテット作だ。(杉田) ④

Dance In A Triangle / Yves Theiler



- ①For Bass ②Day By Day ③Book Of Peace ④Dance In A Triangle ⑤In A Way It's Nothing ⑥Caravan Change ⑦Over There Is Another One
- Yves Theiler (p,Wurlitzer) Luca Steier (b) Lukas Mantel (ds) 2015.9.28.27, Winterthur, Switzerland
- Musiques Suisses MGD Jazz 18

スイスの新鋭ピアニスト、4年ぶりのトリオ第2弾

87年チューリッヒ生まれのタイラーは、20代の若者らしくジャズ以外のセンスも身につけ、オムリ・ジューゲルとのデュオを経て、この全曲自作集に至った。高音と低音のコントラストを強調した①、ピアノとエレピの同時使用による④、右手の速弾と左手のコード・ワークで組み立てた⑥と、多彩なテクニクを披露。変則的なリズム・パターンや爆音のトリオ・コンセプトは、母国のルスコーニにも通じる。知的にまとめるセンスが武器と聴いた。(杉田) ④

【入手先一覧】 ①レーベルより直送 ②HMVオンライン ③amazon.co.jp ④ディスクユニオン御茶ノ水 Jazz TOKYO
⑤ディスクユニオン新宿ジャズ館 ⑥ユニバーサルIMS ⑦キングインターナショナル ⑧インポートメント